

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します



暴風來 附 普通選挙の精神 億兆一心の普通選挙  
SAMPLE 上杉慎吉 Shoshi-Shinsui.com



目次

暴風来 11

序 13

国家第一 18

人の相関と連続 24

如何にか我が國体の精華を發揮すべき 51

民主の世界潮流 51

多数勢力の時代 65

桐花会の志成るの秋 73

憲法發布三十年にあたりて人心の振興を促す 88

普通選挙論 102

洋化五十年 106

デモクラシーと我が國体 114

デモクラシーの語義 114

純粹なるデモクラシー 116

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

国民総投票制	117
我が國体と直接民主制	118
直接民主制の価値	119
多數決の不合理	123
国民総投票の価値	126
西洋本来の立国精神	129
西洋專制君主の成立	132
ヨーロッパ中世の民主の潮流	138
民主思想の旺盛	141
大革命	143
現代西洋立国の精神	144
西洋現代国家の精神と我が國体	152
代表民主制	150
議院政治と我が國体	152
代表	154
国会の信望の失墜	161
政黨	164
民意発表の社会機関	167
最近のデモクラシーの思潮	169
人民の精神的組織	173
民本と民主	174
結論	176

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

億兆一心の普通選挙

デモクラシー平解	178
億兆一心世世済歟美	190
思想問題の解決	192
民力涵養の急務	194
興国同志会	196
資本家に望む	197

普通選挙の精神

同胞国民に告ぐ

203

序言

207

第一 国民総動員	212
第二 更始一新	225
第三 和衷協同の生活	233
第四 億兆一心	251
第五 臣民の翼賛	257

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

# 暴風來

附

普通選挙の精神

億兆一心の普通選挙

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

## 凡例

一、本書は上杉慎吉の左記著作を集めたものである。

『暴風来』一九一九年、洛陽堂刊行

『普通選挙の精神』一九二五年、敬文館刊行

『億兆一心の普通選挙』一九二六年、中央報徳会刊行

一、本書では新漢字・新仮名遣い表記を採用した（人名の漢字は例外）。また読みやすさのために、漢字表記を平仮名表記に置き換えたものがある。「廿」は旧漢字ではないが「二十」に置き換えた。異体字関係にある漢字は原則として元のままに表記したが、現今一般に使われることが稀なほうの字の使用は避けた。（例、翻→翻、爵→鬱）

一、句読点、中黒点、送り仮名を現代的な感覚で加減し、読み仮名ルビを付加した。元の文において「依て」「依つて」「依りて」のように不統一であるものに送り仮名を加える場合は促音便によるそれを加えた。

一、踊り字は「々」を除いて文字にした。「」の字点は「々」に置き換え、合略仮名は通常の文字に置き換えた。

一、二行割の注記は本書刊行所によるものである。

一、鍵括弧の用法は現今一般の慣例に従つた。

一、敬礼の隔字は省略した。

一、片仮名語等の表記不統一は原則としてそのまま表記したが、以下のものは例外的に統一（訂正）した。  
た。デモクラシー／デモクラシイ→デモクラシー ゲルマン／ゲルマニ→ゲルマン ブルジョアジー／ブルショアジー→ブルジョアジー サンジカリズム／サンジガリズム→サンジカリズム

SAMPLE Shoshi-Shinsui.com

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

暴  
風  
來

SAMPLE  
[Shoshi-Shinsui.com](http://Shoshi-Shinsui.com)

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

# SAMPLE Shoshi-Shinsui.com

一九一九年刊行

## 序

大正六年九月三十日稀有の大暴風あり、予おもえらく天意恐るべし、戒めざるべけんやと即ち左の一文を草し暴風來と題して國民新聞に投ず。

今回の暴風は實に非常なる破壊力を逞しくせり。倒れざる塀はなく、剥がれざる屋根はなぐ、全然崩壊したる家屋建築物もまた極めて多し、六十年來の暴風なりといふ。或いは然らん、大抵の人には未だかつて経験せざりし大暴風にて、これだけの大暴風を計算に置かずして建てたる家屋建築物のことなればこれに堪うること能わずして一朝にして崩壊したるは当然なりとも謂うべし。されどこれのみに非ず。近年は暴風誠に少なく平穏打ち続き、四、五年來塀倒れ屋根剥がるるほどの大暴風のなかりしこと、建築物の損害甚だしかりし原因なりしものの如し。もし二、三年前に或る程度の大暴風ありしならば、塀も丈夫に修繕せられ居り、さほど脆くは崩壊せざりしや明らかなり。多少土台は朽腐し居りても、先ず無事なるま

まに継ぎ接ぎに修繕し補綴を重ねて辛くも外観を保つのみなりし所に、一朝にしてこの暴風雨に遭う。風も稀有なる大風たりしならん、然れども家も継ぎ接ぎ細工にて土台は朽腐し居りたるなり。ことごとく崩壊し去りたるはまた当然至極といいつべし。

予はこれを見て悚然として帝国の現状を顧み、深憂止むこと能わざるなり。明治維新後明治天皇の大御代は皇國無前の隆運に会い、海内外に統一して国土平安四民鼓腹して幸福を重ね、法制具わり、文物整い、二十二年には立憲政体布かれ、二十七、八年には支那に克ち、三十七、八年にはロシアを服し、台灣を取り、朝鮮を併せ、善い事づくめにて困難といふほどの困難に逢わず、今回の大暴風も安政以来なりなど云うが、國家の事も同様に幕末外敵四方に迫りて国難危かりしも昔にて、明治大帝の御成徳の下に順風に帆を揚ぐるの勢いにて四十五年を進み来たりて大正の世とはなれり。この平穏順境の間に我が国は果して継ぎ接ぎに修繕補綴を重ねて今に至りしの状勢なからずや。近來世人は齊しくあらゆる方面に老人のみ枢要の地位を占め、活潑有為の気象衰えたりと云うなり。これは事実なり。然れども当然の事実なりといふべし。平穏無事なる時は普通の能力ある人ならば日常の用事は運び得るなり。縁日に入ごみの中を行くが如し。歩まんと努力せらずとも多勢と共に何時か進みて社前に至ると同じく泰平の世には活動も勢力も必要ならず、自然に年の取りたる人が上に立つに至るは当然の成り行きのみ。しかして上に立てる老人になるべく当り障りなき平穏無事の人を用いてその日を暮らさんとす、何ぞ好んで平地に波を起さん。かくて青年の立身を希う者も早く

より老人の如くなりて活気なく大志なく、碌々無為、巧言令色婦人の態をなし惰氣満々、全  
国昼夜の如き有様となるは誠に自然の勢いならずや。

然れどもこれは自然ならんも誠に不安危険の状態なりといふべし。一朝俄然雷雨の來たることあらば縁日見物の群集の蜘蛛の子を散らすが如く右往左往に壊乱するが如くならん。殊に今日我が國において上に立てる老人は維新の大業に参して回天の事を遂げ、明治の盛運を翼<sup>なみ</sup>けて恢弘の局に當りし人々なり。その下に居つて日常の用を足し行く連中の規模は益々小ならざるを得ず、眞に無事なる奴僕たるのみ。老人なる巨頭もし斃<sup>たお</sup>ることあらば早速後繼者に困るは各方面に等しく存する事実なり。政府官僚も然り、政党も然り、平穏順境の間に板を打ちつけて泥を塗りこみ來たりたる結果はここにて行きつまり來たれるなり。フレデリック大王の代プロシアは四方に雄視せり。しかも大王の死するや忽然として悲運に陥り、遂に一八〇六年のイエナ全敗に至り、國ほとんど壞滅せり。土台既になきに至れば板や泥を築き上げベンキを塗りて外觀を裝うも一たび大暴風に遭遇すれば忽然として崩壊し去らんのみ。今回の大暴風を見てこれを聯想し、悚然危懼するもの豈<sup>あ</sup>に故なからんや。

これは唯人物の上に就いていうのみ、諸般の事何れが継ぎ接ぎ細工ならざらん。行政制度を見よ、租税制度を見よ、又学制を見よ、皆その時の必要に応じて一官庁を継ぎ足し、一租税を打ち付け、一学校を塗りつぎ、斯くて出来たる膨大にして粗末なる建築即ち今の日本なり。平穏順境なる間は官吏の古手と華族の坊様と政党の弥次馬とを組み合わせたる議会と、

行政の技師書記にてただ官等勲位を以て飾られたる官吏より成る政府とを以て事は運ばん。

明治十七年太政官布告にて定まれる地租に三十七、八年戦役の臨時の必要に出でたる非常特別税をつなぎ合わせて事足りなん。学術の蘊奥を究むる能わざる公私の大大学に専門学校を並列して先ず差し支えもなからん。然れども一朝大暴風の来たる事あらんか、かかる継ぎ接ぎ細工の彪大粗末なる建物たる日本はもとより一たまりもなく崩壊せんのみ。

しかして列国の形勢を察し東亜の現状を稽うれば大暴風の來たらんとの警報は余輩がしばしば高く掲げたる所なり。日本は正に危急存亡の秋に瀕せり。この四、五年は暴風なかりき。

今年は二百十日も無事なりき、八朔も無事なりきと安心し居りたる時に低気圧にわかに起これり万物を破壊し去りぬ。アアこれ何の兆しそ。日本崩壊の大暴風将に來たらんとす。上下朝野惰氣満々昼寐を貪りつつある間に天地を震撼する大変動は來たらんとす。外より暴風の來たるのみならず継ぎ接ぎに修繕補綴を重ねたる塀にも屋根にも虫生じて土台をも喰らわんとするものあり。アアこれまさに大改造の時ならずや。我が万国無比、天壤とともに窮まりなき国体の基礎の上に根本的に日本を改造するに非ざれば、來たらんとする大暴風に堪うる能わざらんとす。來たらんとする大暴風は建国以来未曾有の大暴風なり。非常の覚悟と英断を以て旧物を破壊し堅牢強固なる日本を造り上げざるべからず。大改造なるかな、大改造なるかな、国民何ぞ覺醒せざる。

SAMPLE  
Shoshi-chinsei.com

爾来正に二周年、時事日に非にして吾人の恐慌警戒すべきもの倍々切迫し來たる。本書を發行するの趣旨たる、一に同胞国民の自覺發奮を促すに在り。建国以来未曾有の暴風將に來たらんとするの兆候は既に歴然たり。本書もまた題して暴風來と云うゆえんなり。本書の編輯を終りて印刷所に送るの日もまた九月三十日なり。天意か偶然か。

大正八年九月三十日

上杉 慎吉

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

## 国家第一

人類の生活は献身犠牲の生活なり。親は子のために我を棄て、子は親のために我を奉ず。夫婦は同和して一体たり。兄弟相愛我を忘れ、朋友相信我を没す。農は粒々辛苦の米麦を他人のために供給し、工は我が技能を尽して他人の用を遂ぐ。商賈は奔走してこれの剩れるを取りて彼の足らざるを補い、士人は知能を傾倒して世を済し民を救うて我を顧みるなし。かくの如くにして我が本性を充実し發展するはまことに人生の意義にして、空間と時間とにおいて許多の人類を聯結して人類の文化を充実し發展するゆえんは實にこれに存せんばあらざるなり。この献身犠牲の生活を地上に完成したるものは即ち國家なり。これ予が国家は最高の道徳なりと提唱するゆえんにして、吾人が一切の献身犠牲の生活は国家においてこれを最高完全に実行することを得べきなり。国家なれば親子夫婦兄弟朋友の彝倫<sup>いのりん</sup>あることなく、農工商士の分業存すべからざるなり。人類は国家に対して最大の献身犠牲をなし、国家において最も完全に我を充実し發展す。故に人類の一切の献身犠牲はこれを帰して国家に到らざるべからざるなり。これを我が国民道徳の骨髓

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

とする忠孝一致の真義となす。忠は我を奉じて国家に致すなり。孝は特に孝に就いてこれを云うも、一切の道徳を標徴するのみ。親のために我を奉ずるの献身犠牲は国家のために我を奉ずるの献身犠牲と一致するにおいて真にその意義を發揚すとなすなり。我を奉じて国家に致して顧みざるにおいて孝全く、和至り、愛就り、信遂ぐ。百姓相互の犠牲もまた充実すとなすもの、忠孝一致の意にして我が大日本帝国がこれを根柢として維持せらるるとなすべきゆえんは實にこれに存せり。

人類一切の生活において國家第一なり。先ず国家と云え、然る後に凡百の生活事象あるべきなり。第一に国家のために、然る後に一切の道徳を実行すべきなり。国家は凡ての上に在り、国家ありて個人は完成す。国家ありて倫常存し、犠牲遂ぐ。しかして我が大日本帝国において、天皇即ち国家なり、天皇は民族一切の生活の根源たる天神の遺靈を体得したまい、惟神の道を地上に行うを以て天職とし、国家の最高の道徳たるゆえんを一身に負担してこれを永遠に実行したまうを以て本質とす。我が国においては天皇は即ち最高の道徳なり。国家に我を奉ずるは即ち天皇に我を奉ずるなり。外国においては国家を愛するがために君主を弑せる者あり。我においては国家に奉ずるは天皇に忠義を致すと一致して離ることなし。忠孝一致は国体の精華にして、我においては国家第一と云わざ天皇第一と称すべきなり。一身を鴻毛の軽きに比し、心身を尽して天皇に奉ず。ここにおいて日本人たるの道徳完く、人類の生活の意義を充実し永遠なる文化の發展を期すべきなり。

今や国歩艱難、人類の歴史ありて未曾有の一大転機に遭遇して、大いに日本を興さんか、將た日本を亡ぼさんか、吾人が生れ合わせたる、わずかに五十の人生を以て偶々今に生れ合わせたるこの時において、我が日本民族は祖先以来伝来せる金匱無欠の国家を興さんか亡ぼさんかの絶頂の上に立ちて、祖先以来伝来せる報國殉公の精神を試練すべき運命に到会せり。この危急存亡の秋にあたりて目を擧げて我が国情を見る、予は實に慷慨憂憤の念に堪えざるなり。我が民族はなお忠孝一致を以て道徳の骨髓とするか。朝野の人士は果して天皇第一、國家第一の強烈なる信念を有するか。政府者は自己の地位を維持するに急にしてこの一大転機にあたりて国家を泰山の安に置き、皇威を八紘に輝かすの大抱負あることなく、政党者は勢利を獲得せんとするに専らにして国家を第二位第三位に置きて自らを覺らず、政黨員は弥次馬を事とし、官吏は毎日八時に登庁して帰宅するのみ。何の見識もなく理想もなくその日を送りて醉生の裡、老いのようやく到りて官位の上のを喜ぶのみ。実業家はわずかに数百万数千万の財を得て意満ち、骨董を玩び邸宅を壯麗にして妻妾に誇るのみ。世界の富を我に網羅せんとするの氣魄あることなし。軍人は昇進の遅きを嘆きて停年を僂指するのみ。教師は時間だけの授業をなして月給の卑きを訴うるのみ。青年学生の意氣もまた衰えたり。志天下国家に在るなく、人格思想を修養することを思はずして衣食のために学校に入るのみ。朝野を擧げ老壯を通じて無理想無信念、唯だ碌々として月日と共に進むのみ。そのやや可なる者も小廉曲謹にして雄偉博大の精神なく、或いは巧智令色にして真骨頭を欠けり。天皇第一、國家第一の精神満身に充溢し、心力を傾注し一身を捨てて顧みざるが如き

は、國を挙げて何れの所にもこれを見ること能わざらんとす。ああ衰えたるかな民族の精神や。今の時にあたりてかくの如くなる命か數か、日本は遂に亡びざるべからざるか。吾人は奇しき縁ありて同じ時に共に生れ出でたる同胞と共に亡びざるべからざるか。

否、吾人は亡ぶべからざるなり。同胞国民よ、覺醒せよ。しかして潑刺たる元氣を作興せよ。時局の偉大なる意義と各人の至重なる職分とを想念せよ。皇國の興敗實にこの時に在り。各人奮励せざるべからず。國家第一なるかな、國家第一なるかな。この精神を満身に湛え、忠孝一致の信念を血脉に漲らせ、しかしてこの事業に當る、何んぞ國家の亡ぶるあらんことを憂えん。大日本帝国を建設して皇威を八紘に輝かさんこと目前に在り。國家のためには我が一身だもあることなし。いわんや我が地位をや、勢利をや、衣食をや、金錢をや。大義のためには親を滅すべし。親も捨て子も捨て夫婦も捨て兄弟も捨て、党派もなければ僚友もなし。行き掛りもなく情実もなし。国家のためには一切空ならざるべからず。吾人は實に亡ぶべからず。亡びざらんとせば實にかくの如くならざるべからず。國家第一、國家第一、予は同胞国民が一齊にこれを唱して一切活動の根本義となさんことを切望するものなり。

交戦諸国が開戦以来ことごとく従来の行き挂り情実を捨て挙国一致せるは人をして驚嘆せしめたる所なり。何事も國家第一を根本とし、これがために食を減じ衣を剥ぎ、一切を犠牲に供して顧みざるなり。我が国民これを見て何の面目がある。なお日本魂は日本特有なり。忠孝一致は我が国民道徳の根柢なりと誇称することを得るか。國家第一の主義は今や米国において最も旺盛な

りとす。開戦に到るまで極力これに反対したる者少からず、ブライアンの如きジョルダンの如きを著しとなす。しかも一たび開戦に際すれば忘れたるが如く、極力大統領を援助するを怠らず、党派の区別の如き、主義の差異の如き、ことごとく撤去せられたるの觀あり。国家のために私は心を挾まざる高風清格、真に欽慕すべからずや。米国本来の主義たる個人自由の如きもまた捨てて頗みず、極端なる営業の制限、物価の調節を行い、新聞紙の検閲を行ひて輿論もまたこれを非なりとせず、能く国家のなすべき所を了解して歩調を一にせり。大学教授の平和を唱うる者を馘首して、思想の自由は国家の必要に対し主張することを得ずとなして、国民これを歎呼し、議員の非戦を云う者を除名せんとして、群衆これを喝采す。米国はほとんど昔日の米国に非ざるの状態あり。その国家第一のために一切を犠牲にして大帝国主義を世界に行わんとするの概ある、まことに羨望に堪えざるなり。忠孝一致を国体の精華とする日本、顧みて自ら恥じずや。近頃米国において举国一同盟なるもの設立せられたるを聞く。各方面の名士を以て成り、兩大政党の領袖もこれに加わり、資本家も労働者も普く代表せらる。宣言書を読むに或いは「今日は過去における旧式なる迷信又は机上の空論に基づく意見の相異に拘泥するの時に非ず」と切言し、「この危機に際し举国一致は論弁と騒擾とに依りて危うくせらるべからず」と絶叫し、「吾人は高く從来の党派、人種、信仰及び事情の差別を超越する国民的協調のために結合するものなり」と宣言す。何物をも犠牲として米国をして世界に雄視せしめんとするの概を想見すべく、実に懦夫をして起たしむるの雄風は吾が日東男子をして血湧き肉躍らしむ。しかしてこれは米国の事にして我が日

本の事に非ず。米国の戦うはもとより正義のためなるのみ、人道のためなるのみ。然れども、陸に三百万の大兵を擁し、海に世界第一の海軍を建造するに至らんとす。将来のヨーロッパとアジアとは恐らくはその手中に在らんか。大西洋は米の大西洋たるに至るのみならず、太平洋もまた米の太平洋たるに至らん。米人のなす所、規模の雄大なる、胆豆の如くなる日本人の与り知る所に非ず。しかして東方ロシアは擾乱して收拾し難く、支那は遂に平安の時を期すべからず。この間、英は聯合諸国に立脚して着々として地歩を占めんとす。独り日本人のみ何ぞ子子<sup>けっけつ</sup>たるや。國家第一の大旗幟の下に举国一致して、亡びんとする日本を救うて大日本を建設するの雄図を樹つべきの急切なる、今の如きはけだしこれあらざるなり。国家第一、国家第一、奮起せよや同胞国民。

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

## 人の相関と連続

人は人と共に存在し活動す。人に独立の方面あり。然れども既に独立と云うは、人と共に我の独立するの謂にして、他人と無関係に孤立して存在し活動するに非ず、他人なれば我独立することなきなり。人の性能に万人相同じきあり、各人相異なるあり、もし各人全く相異なれば人なる者、存せざるが如く、万人全く相同じきもまた人の存在と活動あること能わず。人は独立なり、故に人と共に存在し活動す。人は人と共に存在し活動す、故に独立して存在し活動す。

我が存在と活動とを反省すれば、その原因は我が周囲なる数人に存し、これを推し広めて、更にやや広き範囲の数人に及び、遂に拡充して一切万人に及ぶことを知るべし。その結果におけるもまた同じ。広く一切万人に及ぶ。如何なる人の最も微細なる一動も、凡ての各人に基かざるはなく及ばざるはなし。我一挙手するも、原因一切万人に在り、結果一切万人に及ぶ。我もし一挙手することなかりしならば、人の全体は少なくともそれだけ異なる状態を呈すべく、波動の及ぶ所、一挙手の有無に由りて如何に大いに異なるべきかは想像し得べからず。

SAMPLE  
Shoin-sui.com

万人は膠様なる一体なり。最も小なる一部分における最も小なる微動といえども、他の凡ての部分に及び、一切万人を動搖す。例えば多數の細胞より成れる人体の如し。一細胞の運動も全体に影響す。予はこれを人の人の相関作用と名づく。

人は人と相同じきが故に共に目的を同じくして活動す。人と人との協動は人の力を大にして、その効果を發揮するゆえんにして、人又は人道と云えるの自覚感情はここに生ず。協動は人の本性に属し、人は協動的動物なり。然れども、人は相異なるが故に協動す。各人の性能に従いて各自分担する所あり。しかして一切万人をして各々その性能を遂げしむ。ここに独立と自由あり。協動は全体性の充実にして、個性の發揮なり。

人の協動の最も簡単なるは夫婦親子なり。夫婦親子あるに由りて、人は人たり。男女相異なるあり、故に夫婦たり。各々その性能を遂ぐ。親は子ありて親たり。子は親ありて子たり。五倫五常の関係は人の本性を完うするゆえんにして、これを道徳の基本となす。経済上の分業協力の関係もまた同じ。一切の精神上物質上の関係に涉りて人をしてその本性を遂げしむるは、人の相関作用の存するに由る。

凡そ文明の進歩又は文化の発展とは、人の相関作用の益々緊約し益々完成することを謂う。古代粗野の時代在りては人の相関は極めて放漫にして、その及ぶ範囲もまた狭し。範囲狭きに非ず、一切万人に及ぶといえども、及ぶの薄きが故にこれを感知せざるなり。文明の進展すると共に、人の相関は益々密接に益々広汎なり。現代の特色たる多しといえども、人の相関作用の發達せる

を以て最も著しとなす。他の文明の特色も皆或いはこれに本づくとなすことを得べし。人生は益々複雑に赴き、人の性能の各々異なるも甚だ多岐なるに至り、相関作用は益々微妙に鋭敏に、益々緊約せるもの、実に現代の文明なり。

人は人と共に平面に共に存在し活動し、協動し相関するが如く、縦に時を異にして各人共に存在し活動し、協動し相関する。我的存在するは原始より今に至るまでの一切万人の結果なり。如何なる一人が存在せざりしも、我是今の我の如く存在せざるなり。我的活動は未来永劫に涉る一切万人の原因なり。我的如何なる微細なる活動も、もし此れあらざりせば、一切万人は永遠に異なる一切万人たらん。人の存在と活動とは、人の存在と活動を誘起し、人の存在と活動とは、人の存在と活動とに由りて醸成せらる。連関鎖結欠隙あることなく、引縁相牽皆一に帰す。

予はこれを人の連続と名づく。人の靈魂は真に不滅なり。人の精神は真に永遠なり。人は不滅なり、永遠なり。我が血肉は祖先の血肉なり。祖先と謂うは我に先立てる一切万人なり。祖先は一人も残らず我において生々活躍す。我的存在と活動とは、祖先の存在と活動となり、生死は一如なり。生るるものこの連続の間においてし、死するも永久にこの連続に参す。我が五十の一生は不滅なり、永久なり。未來永劫、一切万人を通ずる我が子孫において生々活躍す。

文明の進歩又は文化の発展とは、人の相関と連続との進歩発展なり。人は個人に非ず、空間に推し拡げて、一切万人の相関する一体の、時間に連続して、原始より永劫に涉る、一切万人の不滅なる一体たる人なり。私は独り存在するに非ず。この一切万人の相関と連続の内に存在す、こ

の相関し連続する一体たる人は、一個の無限の生命を有す。この生命の発展を文明の進歩又は文化の発展と謂う。要するに人の発展なり進歩なり。理想に至るなり。道徳に嚮<sup>むか</sup>うなり。人の人たるを無限に発展するなり。

人はこの相関と連続の内において、我を発展す。我が生活は我を発展するの生活なり。しかしてこの相関と連続なれば我を発展すること能わざるなり。然れども我を発展するは、この人の相関と連続とを発展するなり。相関し連続する一体たる人を発展するなり。人は相関と連続の内に位して、我を発展するの要求を有す。しかして我を発展するは、相関と連続とに参加する人の本務なり。相関と連続は我がために存す。相関と連続の発展するは、我が発展の要件なり。我的発展の足らざるは、相関し連続する一体を害うなり。我は共に存在し活動する一切万人に対し、我を発展するの責任を有す。我は祖先と子孫を連続するの結鎖として、我を発展するの義務を負えり。各人の相関と連続の一分子として、分担する所は、空間に及び、時間に通し共に存在し活動する一切万人のために分担するの本務なり。人の道徳とはこの意義において、人の相関と連続とを、我を発展するに由りて発展するを謂う。宗教も政治も法律も経済も、一切の文化は、この相関と連続とを発展するに外ならず。

かくの如き相関と連続とは、一切の物の内部に存在せり。人体もまた細胞の相関と連続なり。しかしてこれを広くすれば、独り人ととの間に存在するのみならず、宇宙万有に及びて無限なり。この最小なる相関と連続と、最大なる相関と連続との間において、人と人の相関と連続の最

も緊約に、最も完全に発展する一体は国家なり。文化は国家を基礎として存す。国家は最高の道德なり、「人は國家的動物なり」。人もし国家を成さざれば人にして人に非ず。人の相関連続とは国家において最高の発展を見る。人は国家において完全に一切万人の原因結果たり。人は国家において同胞たり。感情を同じくし、目的を同じくし、真三体として人と人と密接緊約に相関す。私は祖先の国家において我たり。国の歴史は我的生命にして、祖先の国家は我において生々活躍す。我が国家は永久なる子孫の国家なり。我が子孫は我が祖先の子孫なり。我を結鎖として一体たるの国家を成す。靈魂は国家において真に不滅なり、人の永久に生くるは国家においてす。

これ予の国家及び法律の根本原理なりと信ずる所の梗概なり。国家に主権あり法律あり、これを結合し、これを組織整理す。同胞民族が、祖先の国家において、子孫の祖先として、主権に依りて相関と連続とを統一し、法律を設けて相関と連続とを規律し、人の独立を遂げしめ、人の協動を完たからしめ、人の分担を定め、人の関係を理し、以て相関と連続とを発展せしむ。今これが詳細を説き、各種の問題に対する応用を述べず。唯だ人の相関と連続とが、人の存在と活動との根本にして、人は国家において完全に相関と連続との一体たることを明らかにするのみ。しかして今特にこれを説くは、今や国家の内外よりして、内は人を個人として窮極の存在を有するが如くに誤解して、国家を解体して個人の完全なる存在と活動を得んとするの思想と運動とあり、遂に人類を滅ぼすに至らんとし（社会主義的民主又は民本主義、過激思想）、外は国家を人道文化の敵なるが如くに迷想して、国家の上又は外に、人道文化の完成を期せんとするの思想と運動あ

り、逆さまに人道と文化との発展を阻止するに陥らんとするにあたり（非軍備主義、国際聯盟）、最も完全なる国家の内に、最も完全なる相関と連続の人たる日本人の深くここに省慮せんことを望めばなり。

# SAMPLE Shoshi-Shinsui.com

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

普通選挙の精神

同胞国民に告ぐ

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

# SAMPLE Shoshi-Shinsui.com

一九三五年刊行

一、明治大帝憲法を御発布ありて、國民よ朕と共に國家の重荷を背負つてくれよとのたまわせられた。普通選挙によりてこれが実現せられ、國民は貧富職業の差別なく、陛下の赤子として、皆この大責任を負わなければならぬことになった。

一、今、我が國には非常なる大國難が迫つて來た。これは誰のせいでもなく、國民自ら日本をここまで持つて來たのだ、今更引くに引かれぬ。我々は金剛無欠の國家を、祖先から引き受けたまま、子孫に伝える義務がある。國民皆氣を一つにしてこれをなし遂げんがために普通選挙が出来たのだ。

一、我々同胞兄弟は、銘々が持つてゐる智慧も、体力も、財産も、皆出し合つて、共稼せぎをして、國民全体の幸福を図り、國のうちに一人も不幸な人の居らぬことを期せなければならぬ。普通選挙は同胞兄弟相争うがために出来たのではなく、國民一致親睦して共同の生活をなさんがために出来たのだ。

一、普通選挙は、億兆心を一にして、天壤無窮の皇運を扶翼し奉り、益々国体の精華を発揚せんことを期するのである。

一、普通選挙は、臣民翼賛の道を広めて、維新の宏謨を成就し、立憲の精神を紹述するものである。

一、普通選挙は、政治上の国民総動員にして、国民を挙りて国家の重きを負担し、帝國の光栄を中外に宣揚するの基を定むるものである。

一、普通選挙は、国民の愛国殉公の至誠に信頼し、同胞和衷協同の生活を実現せんとするものである。

一、普通選挙は、政権の私擅偏倚を勦絶し、国民一致の政治を行い、更始一新の実を挙げんとするものである。

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

## 序　言

私は大正五年の秋頃から、頗りに門下の青年等に向かって、普通選挙制の必ずや実行せらるべき（ママ）からざることを説いたのであつた。以て私の我が國体を基礎とする憲政論を大成すべく、又以て内外益々多難なる帝国の運命を済うべしとなしたのである。六年の春その意見を二、三の新聞雑誌に発表してこれを世に問ひ、八年末には小冊子『國体精華の發揚』を著して、真正の日本を建設し、举国一致の実を挙ぐべきことを提唱し、匡濟の大策は普通選挙制の採用に在ることを主張した。この間講演に論文にこれを提説することを怠らず、數次これを内閣当局に進言して、英断を促したことがあつた。

それ以来春秋七、八年にして、普選法はいよいよ成立公布せられ、次の総選挙から実施せらることとなつた。前途は如何。いよいよ普選の実行せられた暁において、果たして能く举国一致の実を挙ぐるの根柢となることが出来るであろうか。一千万の新選挙人がその投票を誤るが如きことがあつては、真に取り返しのつかぬことである。普選の実施は未曾有の一大変革であるだけ

に、その結果の如何は心配でたまらぬ。しかもその実施の時が目<sup>(ママ)</sup>焦に迫つて来たのである。ここに至つて私は心中に

### 若干の責任

を感じるのである。私が普通選挙を主張するまでは、普通選挙を口にする者は、皆社会主義者か又はこれに近き者であつた。これは危険思想であるとせられて居たのである。国家主義者で普通選挙論者たる者は一人もなかつた。されば私の主張に対しては変説改論と批評する人もあつた。時勢に浮かされて狼狽したのではないかと忠告した人もあつた。しかしながら、私の普通選挙論が出た頃から、だんだん穩健なる考えを懷く人々も安心して、普通選挙は時に応じて実施すべき者なる事を考慮するに至つた。中には私と同じような口調でこれを主張する人も出来、政党の人心に迎合して普選を唱うる者も、その理由として国体の精華を発揚するゆえんであると揚言するようになつた。しかして普通選挙論と云うものが、にわかに実際的となつたのである。私は自慢をせんがために、こんな事を云うのではない。社会の椽<sup>(ツバ)</sup>の下に力持ちをして居る微力なる一学究の言論が、それほどの力があるとは思わぬ。皆時勢の力である。さりながら私自身としては、また私相応の責任を、身にしみて感覺するのである。これいやしくも社会に生きる人として、その分担する職業は異なるとも、誰も皆同じき所であろうと思う。

なおその上に、普選の実施に対して、私が一層の責任を感じねばならぬ大きな理由が更に一つ生じた。それは今年普選案の議会に上程せられた際に、私共がいわゆる純正普選運動を起したこ

とである。元来私が普通選挙を提唱したのは、これを以て我が国体の精華を発揚するゆえんであるとしたからである。然るに、世上の普選論なるものは、皆西洋模倣論である。西洋諸国は皆普選を行つて居るから日本でも行わねばならぬとか、人は皆平等であるとか、出来るだけ多数の人々が選挙に参加するのが民主的であるとか、無産者に投票権を与えて、階級の利益を保護すべしとか云うが如きことを云うて居るのである。これ等の事に就いては後に段々述べるつもりであるが、私は恰も我が憲法が純日本的な憲法として成立したるが如く、普通選挙もまた純日本的な、眞に我が国体の精華を発揚するものとして価値ある普通選挙として、実施せらるるに至らんことを熱望した。殊に政府はこれを提案し、政党はこれを主張して居るけれども、これを各人に就いて聞いて見れば、心から普選を賛成して居る人は、一人もないと云う実状である。これは實に危険千万なことである。普選に対しても自信もなく、誠意もなく、ただ大勢と云うが如き、心中の暗鬼に恐れて、これを実施せんとするのである。これと云うも普通選挙なるものを、ただ、西洋の模倣と考え、その純日本的なことを自覚せぬからである。さればもし純正普選運動の主張したるが如く、我が國粹を尊重維持して、国体の根本に合することを明らかに制度の上に示し、国民を挙りて、これに安心し、六千万人皆心の底から普選に讃和し、皆一齊に打ち揃つて、手を額にしてこれを慶賀する心持にすることを得たならば、普選はその眞に国民の物となり、私共の主張する國体の精華を發揚すると云うの精神にも合致し、これを危険なりなどと云う者をして言を容るるの余地なからしむるを得るであろうと、私は考えたのである。云わば前に早く普選を主張し

たのも、今純正普選運動を起したのも、普選の早晚必ず実施せらるべきを見越したる

### 準備運動

であつた。普選をして国家の害毒たらしめず、國家興隆の基たらしめるべからずとするの希望に発したのであつた。然れども、事志と違い、純正普選運動の目的は達せられなかつた。純正普選運動が、国民をして普選の真精神を知らしむるに、意外の効果があつたことは、自ら顧みて愉快とする所であるけれども、私共の主張は議会を通過するに至らなかつた。私はこの結果に対してもよいよ実施せられんとする普通選挙に對して、天下の有力者と共に、周到なる準備をなすに努力するのは、私として益々奮励せねばならぬ所であると深く感じたのである。

されば私は去る二月、未だ普選法の通過せざる以前において、『普通選挙準備会を設立せよ』と云う小冊子を作つて、各方面にこれを配附し、深き考慮を求めたる趣旨のために、益々努力して見たいと心中に祈願して居る。同志と共に「普選大成会」を組織したり国民政治教育協会を創立したりした。願わくば向後普選の実施に至るまで、私の公務と研究との余暇の許す限り、微力を普選の準備に致し、不敏ながらも、筆に口に普選の精神を、同胞国民の間に徹底せしむるに尽碎したいと思つて居るのである。

これ私の拙き筆を執りて、普通選挙の大精神を説述して、これを同胞国民に捧げんとの志を起したるゆえんである。国民の固有する確固不拔なる日本人たるの自覚、祖先より伝承せる熱烈純真なる愛国心——それが普通選挙の大精神の宿る所である。一千万の新選挙権者は、本来普選の

大精神を体得して居る。何も私の言説を待たぬのである。さりながら人各々職業あり、銘々はその職業に忙しく今さら普通選挙を研究する暇もない。私は大学において、国家の俸給を戴いて、憲法を研究して居る。こんな場合に、普通選挙の大精神を解説して、各々その業にいそしみつつある同胞国民の参考とするは、即ち私の社会に対する義務であろうと思う。

それだから言は平易通俗でも、練りに練つた、これで間違いはないと云う事柄でなければ書かぬつもりである。まして一方に偏した勝手な議論などは私の責任として出来るものではない。

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

## 第一 国民総動員

思い出だせば、大正五、六年の交から、私が普通選挙を主張し始めた実際的の動機は、国家の内部には、思想の混乱收拾すべからざるものあるに至り、外に対しては、帝国の国際的地位益々困難に陥り、前途真に測るべからず、正にこれを

### 危急存亡の秋

ともなすべく、非常の時には非常の事をなさざるべからず、この時に当りて日本国民は思い切つた一大革新を断行し、確固不動の大日本を建設するの基を定め、以て国家を存亡に救うべしとなしたるに在つた。

これより先一九一四年——大正三年の秋、ヨーロッパ大戦争が勃発し、世界は一挙に攪乱せられた。国際間においても、国内諸種の関係に就いても、物質的にも、精神的にも、世界を擧げて一大混乱に陥り、人類の末路、文明没落の時、ここに来たつたかとまでに思われた。日本に取りては、興亡の岐路に立たねばならぬ大難は、時々刻々に迫り来ると感ぜられた。日本が聯合諸国

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

に参加し、逸早くドイツに対して宣戦した事は、利害得失速やかに定め難く、これを後世史家の批判に待たなければならぬが、日本は何れに加担しても、国際的に益々多事多難に至るは免れぬ。将来の事憂うべく恐るべしとは心ある者の皆痛感したる所である。戦争は予定の如く進行せりとなし、事後に至りて先見の明を誇る学者もあるが如くなれども、私などの目には、何事も意外なる事ばかり、意外に次ぐに意外を以てした。露の革命、米の参戦、皆私を驚かした。最後に独の瓦解もまた意外なる事であつた。然しながら、意外でも当然でも、何れにしても、事実は事実である。これでもう日本大国難の条件は完全に具わつたと云わなければならぬ。西隣の大國ロシアは国を共産化して、世界を革命せんと云うのである。露を措きて対外国策を立つる事を得ざる日本は、どうしたらしいのであるか。世界は英米の世界とならんとき、日本は何處に立つ瀬を見出だすべきか。弱小なる日本はもう孤立して、心細き将来を悲観するの外はない。これは尋常一様の事ではいかぬと云うのが、事頃の私の衷心の心配であつた。

国際政局は益々日本のために不利となり、日を逐うて日本は悲境に陥つた。講和会議の事は最早云うに忍びぬ。欧米人と対等の人類なることも認められぬのである。私は当時ひたすら米の傍若無人なる跋扈の将来益々増長、制し難きに至らんことを恐れたのであつた。私が大正八年に『国体精華の発揚』を著し、非常の秋には非常の事を行わざるべからずとなし、挙国一心、挙国総動員、挙国皆兵、挙国経済、挙国一民、挙国選挙の六大綱領を提唱したのはこの頃の事であつた。次いで大正九年、戦後の欧米を觀んがために洋行し、帰来筆を執りて『日本人の大使命と新機運』

を著し、日本人がこの行き詰まりたる難局窮地に陥りて、自らその世界の大使命を自覚し、思い切つたる一大飛躍をなすの覚悟を定めざるべからざるを痛論し、また普通選挙の採用を説いた。

果たせるかな国難は襲い来たつた。一難また一難、一難毎に日本はこれに屈伏して、我が国際的地位は日を逐うて凋落している。大正十年七月、米より華府（ワシントン）会議召集の通告が来たときには、私はこれを日本征服の最後通牒なりとなし、

### 国難來

と絶叫して同胞国民に警告した。學問をして居る者に取りては、書斎を出るほどつらいことはない。然しながら、これも時世時節である。一国民として奉公するに、何物をも犠牲とせねばならぬ。筆を投じて戎軒を事とするも、また運命ならんと覚悟し、同志と共に奔走遊説、米の提案し來たれる軍備制限を拒絶すべしと主張し、一時寝食を廃するに至つた。事志と違い、軍備は制限せられて、國民心血の結晶たる軍艦を破壊せねばならぬこととなりたるのみならず、山東の還附を強圧せられ、太平洋において、支那大陸において、我が發展の出鼻はことごとく挫かれ、米の覇制の基成るに至つた。この結末を見るに至つては、万事休す、帝国の将来や知るべきのみ。挽回の策も施すに術なしと思ひ悩めるのみであつた。次いで日英同盟は破棄せられた。支那は米を笠に着て、帝国を輕侮し、堂々と遼東を還せと横車を推して來た。ここに至りては維新以来五十年の發展もことごとく一夢に帰する。先帝の旧緒は残らず失墜したものと云わなければならぬ。私はまた同志と対支国民大会を開いた。私は演説するにあたり、一介の学者をして、二たび三た

び国民大会に演説せしむるが如きは、真に悲しむべき国家の不祥事であると云つて、涙を飲んだことを記憶して居る。ああ天道是か非か。間もなく大地震が襲い來たつた。日本は半ばは死してしまつた。復興の目途は立たぬ。民力は極度に疲弊した。米人は日本は最早何事をもなし得ずと見くびつて、昨年七月排日法を制定するに至つた。日本国民の面目ことごとく蹂躪せらる。私はこの国辱を日本滅亡の第一歩と見て、また同志と共に國論を喚起するに粉骨碎身した。私は演説において、ただ举国一致、以て國難に當るの覚悟をなすべきことを高調した。慨然筆を執りて『日米衝突の必至と国民の覚悟』を著し、眞の日本開闢はこれより始まる底の大決心を以て、国民総動員をなすべきを説き、

#### 政治上の国民総動員

として普通選挙の実施せらるべきを主張し、これ天の日本民族を試みんとするなり、最後の覚悟をなし、根本的革正を断行するの時到着せりと極言した。

普選の大精神は、政治上の国民総動員と云うことでなければならぬ。我が日本国家は国土狭小にして、資源物産最も欠乏して居る。何を以てか能く列強の圧迫に堪え、世界の表に不動の地位を占め、その体面を維持すべきや。頼む所は一に、ただ一に、国民の力に在るのみである。一つにも人、二にも人、三にも人、人の力の外には頼むべき何ものをも有せぬのである。さればこの危急存亡の機にあたり、国難襲い來たりて、国運累卵にも似たる今日の場合においては、国民の全力を尽して、これに当り、以て国家を擁護するがために、一切の手段を講ぜなければならぬ。

その方策たる一にして足らぬであろう。私が『国体精華の發揚』に掲げたる六大纲領は、ことごとく皆速やかにこれを行わなければならぬ。殊に国民皆兵の実を挙げ、一旦緩急あらんとき、国民皆公に奉じて、一人の力もこれを余す所なき周到徹底の施設をなすを怠つてはならぬ。普通選挙の実施もまた目途とする所、ここに存すべく、国民をして挙りて、国家の重きを負担せしめんとするもの、即ち普選の大精神である。政治は国民の政治でなければならぬ。富めるも、貧しきも、その地位その職業の如何を問わず、いやしくも日本国民たらん者は、一人残らず、總がかりで、全力を国家の運命を開闢するに尽さずんば、この國難を乗り切つて、祖先より伝えられたる金匱無欠の國家を、そつくりそのまま子孫に伝えることは出来ぬ。吾々が生れ合わせたる大正年代に、大日本帝国は衰亡せんとして居る。一人の力も無駄にしてはならぬ。六千万人を擧るも、人口寡少にして、心細き限りなるに、無駄がある様では大変である。速かに政治上の国民総動員令たる普通選挙は実施せられなければならぬ。しかして全国民が、国家の政治に参与するの規模成るの時、日本民族の世界に対する陣容を立つるの基定まるのである。

国家を擁護するは、国民の如何なる一部の専門の仕事でなく、或る人がその責任を負い、他の人はそれに任せて見て居るべきものではない。

#### 国民全体の負担すべき責任

である。誰もこの責任を免ることを得る者はない。この國難に当つて顔を見合わせて、大英雄が出て来るかと待つて居ても何にもならぬ。そんな旧式な考えは、もう駄目である。国民全体直

SAMPLE  
Shoshi-Shinsai.com

接にこれに当るの外はないのである。顧れば徳川氏の末期、黒船にわかに襲い来たり、四辺頻りに急を伝えたとき、国家は危きに陥つて来たにも拘らず、国家を防禦するの任務を預つて居た將軍諸侯武士の力では、到底防護し切れぬと云うことが暴露し、ここに攘夷尊皇の論となり、国家は国民全体の力で防護せねばならぬことが自覚せられた。これが皇政復古の根本原因であつたのである。故に維新の新政はその基礎をここに置き、万民と共に政を行うを趣旨とし、上下心を一にして、盛んに経綸を行うの計画を立て、憲法に至つてこれを大成し、国民一致協同、国事に当るの組織が出来上つたのである。今の普選は、これを紹述して、益々これを徹底せんとするもの、明治以来国を開いて世界の舞台に乗り出だせる、日本国民の志業を、ここに全うせんとするものであると云わなければならぬ。

元来日本民族が、今日の國際的難局に當面するに至つたのは、日本民族の自ら招來せる所である。かくなるべくして、かくなつたのであつて、偶然でも突然でもなく、他人より仕向けられたのでも何んでもない。

### 日本民族当然の運命

である、歴史がここまで持つて來た必然の歴史である。そもそも近代は帝国主義の時代、西洋人の世界征服時代であつた。世界を挙げて、有色人種の土地は、蚕が桑の葉を食う様に、急速力でごとく併呑せられ、有色人種は皆その犬羊となつてしまつた。南北米大陸も、アフリカも、残らず西洋人の腹中に入った。アジアにおいて、インドは早く英の毒牙にかかり、シベリヤも露人

に蹂躪せられてしまつた。アジアの大半西洋人の手中に帰し、眠れる獅子支那を俎上に料理せんと云い出して、先ず香港を取つた。西洋人の向かう所無人の境を往くが如く、西洋人の世界征服は、真に滔々たる大勢であつた。然るにそれが極東の最端日本まで来ると云うと、俄然一頓挫した。日本民族は勇敢にして不屈、祖先以来養い来たりし骨力を以て、敢えてこれに抵抗した。有色人種即ち西洋人の見て以て劣等人種となすの未開人にして、西洋人に抵抗したる唯一の民族は日本人である。西洋人に取りては驚くべき奇蹟である。大勢はここで岩石にぶつかつた。それさえあるに、日本人は直ちに国家の内部を立て直して、積極的攻勢的に、西洋人に逆襲して來た。眞に驚くべき歴史上の大事件である。日本民族はかくの如き大勢転回の大壮挙を敢行したのである。しかして、日本民族に何の頼む所があつたか。地小に人寡、物資は貧弱であり、物質的文明は全然未開の状態である。以て西洋人に抵抗し、これを凌駕せんとする、無謀もまた極まると言わなければならぬ。ただ日本民族不屈の魂が許さぬと云うのである。これは大難局に陥るは当然である。今日の国難の本はこの時に在ると云わねばならぬ。兎が獅子に飛びついたのである。今まで六、七十年間独立を保つて來たのは不思議と云つていい。しかも日本は瞬く内に、世界八大強国の一となり、五大強国の一となり、今や英米に雁行して、三大強国の一ともなつたのである。一に国民の精神力を頼んで、一も物質力を有せずして、世界の大舞台に立つて、ここまで來たのである。艱難又艱難、立つて居ることすらも危きに至れるは当然と云わなければならぬ。日露戦争以後全然国際間に孤立するに至り、頭を出しさえすれば、隨處に叩きつけらるるは、日本

民族の自ら招ける運命である。米人が今日の日本圧迫策を以て、七十年前ペルリ遠征の継続と思つて居るのは当然である。何故に日本のみが征服されぬか、自ら征服されぬのみならず、他の有色人種を征服するを妨ぐるか。第二十世紀において西洋人を代表する米人が、日本屈せざるべからずとなすは、歴史の必然なる帰結である。

この必然なる難局に当りて、日本民族は果してこの大難に堪え得るや否や、これ世界歴史上未曾有の問題である。第二十世紀の問題はこれに尽くるとも云うべきであらう。日本民族は今やこの大試錬の火中に立つて居るのである。これ日本国として未曾有の大事であるのみならず、世界歴史に在りて、かかる大試錬に出会つた民族は一もない。吾人は我が大国難の深き歴史的意義を自覚せねばならぬ。しかして心痩え、氣落ち、ここに挫折するならば問題はない。西洋人の世界征服の大勢は一小頓挫しただけで成就することになる。然れども日本民族もしその祖先以来養い來たれる勇往果敢の気象を失わず、一たび世界を驚倒せるその猛志を銷磨せざるならば、問題の解決は幾世紀を要するか分らぬ。日本民族は一たびその骨力を示せるがために、日本民族の固有する不屈の魂のために、これより以後幾百年難闘苦戦の生活をしなければならぬ。

しかしてこれを凌ぎ切り、日本民族存在の意義を永遠にするもの、一に

### 国民一致の精神力

に依らなければならぬのである。日本民族がここまで伸して來たのも、国民一致の精神力に依る。この艱難も国民一致の精神力これを招いたのである。頼むべきは一に国民一致の精神力のみ。物

質の力は全然ゼロである。国家の運命を思い来れば、举国之力を集結一致して、これを極度に發揮するの方途は、一切の方面に亘り、出来る限りの手段を尽して、講ぜられなければならぬ事云うを待たぬ。この場合、普通選挙を行うが如きは、何かあらん。国民一致の精神を發揮するがためには何事をも行わなければならぬのである。もし同胞国民中、選挙権なきがために、国家の事を他人の事の如くに視る人が一人でもあつたならば、大変なることである。貧乏なるがために選挙権が与えられぬと考え、国家を等閑視する人があつたならば、或いは反感を持つにも至るならば、日本民族の永遠なる生命を、この大難の間に維持するなどは、到底望むべくもない。日清日露の戦争に、国家のために命を鴻毛の軽きに比し、一身を鋒鎗にかけて顧みざりしは、多く皆貧乏人の子であった。日本国家は貧乏人の擁護したる国家である。然るに今選挙権のために、その愛国心に陰影を生じ、举国一致の精神が寸毫たりとも傷つけらるるならば、真に由々しき一大事である。国家は自分等が双肩に担うて居る国家である。愛国心に貧富の差別はない。制限選挙の制が、少しでもこの心持を害うならば、速やかに撤廃せられなければならぬ。国民ならば皆選挙権を有すると云うの普通選挙制が、国民一致の精神力を振起し維持するの根本となり、国民一致の精神力を政治の上に表わすゆえんとして実行せられなければならぬのである。国家の大難迫り來たれり。国民は政治上に総動員せよと云うもの、即ち普選運動の大精神である。

こればかりではない。日本民族は自ら大国難を招き、自らこれを乗り切らなければならぬのみならず、必ず成し遂げなければならぬ、

## 世界歴史上の大使命

を負うて居る。西洋人の世界征服の大勢が、無人の境を往くが如くに数百年進行し來たれるもの、日本民族の勇敢なる抵抗に依つて、一頓挫したことは、日本民族の運命に重大なる意義を与えたのみならず、この大勢は顛覆せられ、有色人種は決して西洋人の犬羊たるべき宿命を有するものではないことが証明せられ、世界十二億の有色人種をして、一大自覺を起さしめ、努力奮励、以て西洋人の羈絆を脱すべしとなすに至らしめた。この新機運が、殊に大戦争後熾盛なるに至りしことは、かつて小著『日本人の大使命と新機運』において述べて居る。講和會議における、日本の人種平等の提案は、世界歴史上深甚たる意義を有する事件であつて、世界は西洋人の世界、文明は西洋人の文明、正義人道は西洋人の正義人道と云う考えは、将に根柢より覆されんとするに至つた。有色人種の西洋人に對する独立解放の運動は、到る処に起つた。西洋人は如何なる方面より考うるも、結局敗けると云つて居る学者もある。普く人類全体が、世界を挙げて、文明の徳沢に浴するの、眞文明の曙光は輝き始めた。第二十世紀を初めとして、世界歴史は初めて正しき方向に向かうのである。しかしてこれ一に日本民族——我々がその一人たる日本民族の、造り出だせる新機運なることを、我々日本民族は飽くまで承知せねばならぬ。世界十二億の有色人種は、日本人の顔色を見て、或いは勇み立ち、或いは悲観するのである。日本一進せんか、世界は救わるべし。日本ここに挫折せんか、人類の文明は永久に暗黒なるべし。一は皆日本民族の責任に帰する。日本人は實にエライ事を始めたものである。幾百年間虐げられたる十二億の有色人、——

頓に覚醒して、新興の活氣瀟灑たる有色人、——その先頭に立つて、世界歴史を転回せんとするのである。日本民族は今や止まらんとして止まるを得ぬ。繋る所は自分等だけではない。世界人類救済の鍵は、神より我が手に与えられた。日本民族はこの大使命のために、その天才、その能力の有らん限りを尽して奮闘しなければならぬ。しかして、この事業たる、容易なる事ではない。日本民族の建国以来養い來たりし力は、これをこの時この事のために試みんがための力である。我に幾許の力あるか、極度にこれを發揮しなければ、いかでかこの大業を成し遂ぐべき。この大使命を果たさんとならば、日本人は一人として、休んで居るべきではない。速やかに挙国を総動員せよ。経済上にも、軍事上にも、思想上にも、一切の方面において総動員の計画が立てられなければならぬ。この時、この国における、政治上の国民総動員たる、普選の実施は、実に世界歴史的の意義を有する。国内における個人や階級の問題のみではない。日本民族は今普選を採用せるにあたりて、深くこの精神意義の存する所を反省し、日本民族の大使命を成し遂ぐるの基礎を定むるものたる事を、自覺しなければならぬ。この日本人の大使命を思うときは、

### 米の排日問題

なるものの、深刻なる意義も了解せらるるのである。米人は今や西洋人の代表者である。有色人種の先頭に立ち、これを率いて、その解放独立を期せんとする日本人が、米において劣等なりとして、公然法律を以て排斥せらるるのは、単純なる日米の問題ではない。世界十二億の有色人種の運命を定むべき根本問題である。日本民族は全力を挙げてこれを解決し、西洋人をして人種平

等の原則を認めしめ、有色人種の自覚自尊の心を擁護保持しなければならぬ責任を負うて居る。

然れども、米は世界の強大国である。富は世界の過半を占め、人は闘争冒険の気象旺んに、大戦争後得手に帆を揚げ、世界を小とするの志を懷き、傍若無人の状態である。ヨーロッパ諸国皆屏息して、その御機嫌を損せざらんとして居る。弱小日本を以てこれに當る、百が百まで必敗である。しかも、私はこれを避けんとして避くるを得ず、皆米からしかけて来るのである。彼は公然日本征服の計画を立て、着々これを実現せんとして居る。必敗でも何でも、日本民族はこれに当らなければならぬ運命である。この運命に遭いて、日本亡ぶるか、民族有為の資を以て、大いに興るか。興亡の機この秋に在る。しかして、頼む所は唯だ人力のみ。この時に政治上の国民総動員を行うは、当然中の当然であつて、普選の下に举国一致し、退嬰、卑屈、追従、迎合、ややもすれば國運を誤らんとする官僚外交、西洋摸倣外交を一掃一新し、真乎国民的なる

#### 自主的外交

を確立し、対露対支の進取的国策を定め、英米に対する周到なる用意を了し、興國日本の基を定むるは、我が民族に取つて、一日を緩くすべからざるの最大急務である。普選実施せられて、国民の自覚大いに起り、国を挙げて、国是を定め、民族の大使命を果たすに至らんは目前に在り、眞に慶祝の至りであると云わなければならぬ。

普選実施の効果は、国民を挙りて、国家の重きを負担し、帝国の光栄を中外に宣揚するの基を定むるに在らねばならぬにも拘わらず、米国あたりの新聞の論評には、日本は普選の実施に依り、

これより内部に面倒なる紛争衝突を生じ、これに忙殺せられて、専ら力を対外の国策に尽す能わず、強力なる一致の国論を以て外に当ることを得ざるに至るであろう。普選の実施は日本の

### 国際的地位衰頼の第一歩

であるであろうと云つて居るのである。この論は支那その他の諸外国の新聞にも見えた。かの華府（ワシントン）會議の時において、米人は日本には一致したる国論と云うものはないと云つて、我が代表者の主張を見くびたと云うことであるが、我々は顧みて大いに戒むべきものあることを知るのであるけれども、普選の実施の結果として、我が国民の間に忌わしき紛争衝突を生ずると云うが如きは、明らかに日本国民の愛国心を侮辱するものであると云わなければならぬ。举国の同胞一体同心、国家興亡の大時機に、奮励努力せんとする、民族固有の本性に発する日本民族の決心覚悟の知られざるは、真に残念千万と云わなければならぬ。然れども、我々がもしも普選の精神を取り違え、或いは油断して居ると云うと、折角の普選も、米人の予言し、または希望するが如く、国家を混乱に陥るるの原因とならぬとも限らぬのである。しかして普選がかかる禍根を蔵するかと見るべき事情も多大に存在して居ることは後に述べるが如くである。我々は警戒せねばならぬ、普選をして國の患害たらしめざるべく、十二分の用意をなさなければならぬのである。

SAMPLE Shoshi-Shinsai.com

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

億兆  
一心の普通選挙

SAMPLE  
[Shoshi-Shinsui.com](http://Shoshi-Shinsui.com)

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

# SAMPLE Shoshi-Shinsui.com

一九三六年刊行

## 序 文

回顧すれば、予が政治上の国民総動員を行い、以て内外の国難に当るべしとなし、普通選挙の断行を主唱したのは、大正六年の春であった。今その前後より十有余年の間、普通選挙と苦楽を共にしたことを見いめぐらせば、實に感慨無量である。その前年普通選挙の断行を、故山県公に進言し、すこぶる画策する所あり、六年には論文を発表し、次に著書を公にして、普通選挙が、我が國体の精華を發揚し、億兆一心、君民合致の実をあぐるゆえんたることを力説した。當時人或いは予を以て狂せりとなし、又は変説と罵つた。予はかつて一九〇七年、ドイツスツットガルトにおいて、万国社会党大会を參観し、普通選挙に就いて、大いに感悟する所あり、爾來すこぶるこれを研究せるも、我が國において、これを行はなお早しとなして、普通選挙論を排撃し來たつたのである。然るに頓かに翻然として、予の臆病姑息を以てして、この大飛躍を試み、狂と呼び痴と呼ぶ、人の評に任して顧みず、速かに普通選挙を断行すべしと云うの意見を公表せるは、予としては随分思い切つたる事をなしたるものであつて、心中の苦心は知る人ぞ知らん、予自ら何をか云わん、後世の批判を待つのみである。その後、或いは普通選挙即行の示威行列を見、或いは国民大会の騒擾を聞きて、事毎に如何に懊惱したか分らぬ。予をおだてる人もあり、詰責する人もあり、罵詈する人もあつた。大正九年、第四十二議会において、憲政会が普通選挙を主張するの態度を決し、原首相突如衆議院を解散するに至るまでの間、予は裏面において、随分無理

な仕事をした。人これを評せば反間苦肉とでも云うであろう。今これを白状するに、予は普通選挙を阻止せんとして活動したのである。予は政党の手に依りて、普通選挙の成立するを不可なりとしたのである。その詳細は予が筐底の記録に留めあり、永久に発表はせぬつもりである。昨年いよいよ普通選挙法の議会に提案せらるるや、同志と共に純正普選運動に死力を尽した。予の志は一に我が國の普通選挙には、我が国特有のものたるの標札をつけて、世の中に出したいと云うに在つたのである。これも事成らず、普通選挙はああ云うことで遂に成立した。

この間予のなしたることは、矛盾もあれば、撞著もある。今日は東し、明日は西し、喜んだり、怒つたり、悲しんだり、形容すれば、波瀾重疊である。自ら省みれば、一個不徹底の痴漢の仕事である。予は人の一生には随分苦しいことをせねばならぬものであると思うばかりである。ただ一片の丹念を留取して、青史に残さんとでも云いたいが、そんな立派な事では決してない。

いよいよ普通選挙法が成立するや、予は直ちに普通選挙準備会を設置せよと云うの論文を発表し、朝野の識者に向かつて、その準備のために計画する所なるべからざることを勧説した。その間或いは少壯憂国の同志に檄して、更始一新の大業成るの機至る、諸君手に唾して奮起すべしと絶叫した。また或いは無産の愛国者たる純真の日本人が、国家の重きを担任し、眞の日本国を建設するの秋来たりと切論して、同胞の覚醒を促しなどした。昨年七月に至つて同志と普選準備のために、大成会を創立したのである。

それ以来、予は普通選挙の精神を同胞国民一人残らず胸の底まで徹底せしむるは、予の責任で

あるとなし、微力のあらん限りをこれに傾注した。日曜、土曜その他暇さえあれば、各地に講演を試みた。昨年の夏は北は北海道から、南は四国まで飛びまわって、遂に暑氣にあてられ、病を得て入院するに至った。今年の夏は九州一円をまわり、東北その他の地方にも出かけた。講演の回数は、八十回以上になるであろう。ああ普選よ、普選よ、何んぞ汝の予を苦しむるや。

本著は、予の某地において、普通選挙の精神を説ける講演の筆記である。今これを公刊するにあたつて、予の普通選挙と十年苦楽を共にしたる愚痴話を述べるのは、予は普通選挙の講演をば、これにて打ち切り、他の方法を以て、更に有効にその目的を達せんと考えて居るからである。

予は最後に、予の普通選挙のために千辛万苦し、全国に亘りて講演し、地方人士と直接接触して、知り得たる所に依れば、予は我が国民の愛国心は、今正に最も旺盛であつて、微動だもして居らぬ、普通選挙を今直ぐに行うといえども、毫も心配はいらぬ。必ずや億兆一心、君民合致の実を立派にあげ得ると云うの確信を得たことを、満腹の愉悦を以て七千万同胞に告げたいと思う。これ本より何人の力なんびとこれを致したのではない。まして予の小なる努力の如きは云うに足らぬ。實に我が建国の精神万世に亘りて消えず、国民の愛国心益々熱烈なるの機運に向かえるに外ならぬ。幸なるかな日本国民や、国家民族の前途は實に洋洋々。

大正十五年八月二十五日

普選準備東北夏季大学より帰りて

上杉 憲吉 記

## 普通選挙五大精神

一、普通選挙は、億兆心を一にして、天壤無窮の皇運を扶翼し奉り、益々国体の精華を発揚せんことを期するものである。

一、普通選挙は、臣民翼賛の道を広めて、維新の宏謨を成就し、立憲の精神を紹述するものである。

一、普通選挙は、政治上の国民総動員にして、国民を挙りて国家の重きを負担し、帝国の光榮を中外に宣揚するの基を定むるものである。

一、普通選挙は、国民の愛國殉公の至誠に信頼し、自治の精神に基ける同胞和衷協同の生活を実現せんとするものである。

一、普通選挙は、政権の私擅偏倚を勦絶し、公正なる選挙に依り、国民一致の政治を行い、更始一新の実を擧げんとするものである。



明治大帝憲法を御發布ありて、国民よ朕と共に國家の重荷を背負つてくれよとのたまわせられた。普通選挙によりてこれが実現せられ、国民は貧富職業の差別なく、陛下の赤子として、皆この大責任を負わなければならぬことになった。今、我が国には非常なる大国難が迫つて來た。これは誰のせいでもなく、国民自ら日本をここ

SAMPLE  
Shoshi-Shinsu.com

まで持つて來たのだ、今更引くに引かれぬ。我々は金匱無欠の國家を、祖先から引き受けたまま、子孫に伝える義務がある。國民皆氣を一にしてこれをなし遂げんがために普通選挙が出來たのだ。

我々同胞兄弟は、銘々が持つてある智慧も、胆力も、財産も皆出し合つて、共稼ぎをして、國民全体の幸福を圖り、國のうちに一人も不幸な人の居らぬことを期せなければならぬ。普通選挙は同胞兄弟相争うがために出來たのではなく、國民一致親睦して自治の信念に基き共同の生活をなさんがために出來たのだ。

SAMPLE  
Shoshi-Shinsui.com

一

今回普通選挙の法律がいよいよ制定せられ、我が国民は貴賤貧富職業階級の差別なく、皆一斉に國家の重きを担任するの責任と光榮とを有すると云う事に相成ったのは、まことにこれ大正聖代的一大盛事と申さなければならぬ。文運の進歩、教育の普及ここに至る。七千万人皆手を額にしてこの聖代に生れたるを喜び祝うべきである。私はこの普通選挙の実施せらるると云う機運に向かつたと云う事に就いて、我が同胞国民と共に最もこれを喜ぶべしとなしまするゆえんのものは、我が建国の精神、我が国体の精華これに依りますます発揚せられんとするにあるのであります。申すまでもなく我が大日本国家は億兆一心、国民同胞ことごとく和衷協同し、その心を以て直に天皇陛下の御心とするを以て万国無比なる我が国家の特色として居るのであります。この億兆心を一にして天壤無窮の皇運を扶翼するゆえんの建国の精神、国体の精華が、普通選挙の制度に依つて、国民挙つて皆国家の重きを担任すると云うことに依つて、いよいよ実現せらるるの機運に到達したと云う事は、この大正の御代に生れ合せたる我我同胞の一大幸福と申さなければならぬ。

二

回顧するに明治の維新は要するにこの建国の精神を発揚するにあつたのであります。皇政を復

古して天皇親ら政をせらるると云う事になつたと云う事は取りも直さず国民全体の力を集結して極度にこれを發揮すると云う事であつたのである。これを皇政維新の大精神としたのであります。徳川氏の末期にあたり、西洋人の世界征服の潮流はまた我が日本国にも押し寄せ來たつて、彼等は我が日本国家を特に併呑せんとしたのであります。ここにおいて攘夷の論頃に起つた。しかしながら徳川氏三百年の制度の結果と致しまして、眞の国民として取扱いを受けて居つたものはいわゆる武士階級に止つて居つたのであります。農工商はこれに与からぬ。されば世界の大潮流として押し寄せ來たつた外夷に対してもこの大日本帝国を擁護維持すると云う事は最も困難と見えたのであります。武士なるものは三百年の太平に慣れて腐敗荒怠、最早この国家を擁護するの実力を有せざることを暴露した。この国家の大難に当つてはどうしても国民全体の力を集結してこれを極度に發揮しなければならんと云うことが自覚せられて來た。外夷を打ち払うには国民全体の力を以てしなければならん。然らば如何にして国民全体を集結しその力を極度に發揮するか。皇政を復古して天皇の御威徳の下に万民ことごとく一致協力してこれに當ると云う事でなければいかん。これ即ち尊皇攘夷の論であつて、皇政維新の大精神であつたのであります。この皇政復古の大精神もまた今日普通選挙の制度の実施せらるるに依つて益々煥發せらるると云う事はまことにめでたき事と欣喜致さなければならぬ。

明治の新政を布かるるや、その初め国民全体の力を集結すると云う事と、四民平等、如何なる人といえども天皇の赤子としては皆平等であると云う事を以て根本の大方針と定められたのであ